

本時の学習【見通し2前半】(3/7)

1 ねらい

「輸出」あるいは、「輸入」について、各種の資料を活用し、自分が設定した問題を解決する活動を通して、調べたことから考えることができる。

2 準備

学習資料、学習の手引き、学習問題一覧表（子供たちから出された疑問をまとめたもの）、学習全体の構造図、ワークシート

3 展開

学習活動	時間	学習活動への支援および留意点	評価項目
<p>1 第1時に貿易にかかわることとして設定された共通問題を確認する。</p> 	5	<p>前時の学習との関連がつかめるように、学習全体の構造図や学習問題一覧表を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活と貿易とのかかわりに気付けるよう、既習事項である自動車の輸出や身近な輸入品である衣料品を取り上げる。 貿易の姿をイメージできるようにするために、輸出と輸入の学習問題がよく似ていることに気付けるようにする。 	
<p>輸出または輸入の様子について調べよう</p>			
<p>2 一人一人が調べる内容について、調査グループで話し合い、追究していく学習問題を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「輸出」または「輸入」について、どんな問題を解決するために、どんなことについて調べていくのかといったことについて話し合い、グループごとに調べる内容について決定する。 <p>3 各調査グループが選択した学習問題を発表し合い、問題追究の方向性に間違いがないかどうか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ問題を追究するグループ同士で、自分たちのグループが「輸出」あるいは「輸入」のどのようなことについて調べていこうとしているかを紹介しあう。 「輸出」・「輸入」についての同じ共通問題をもつ他のグループが考えていることを参考にしながら、自分たちのグループが調べる内容 	15	<p>一人一人が責任をもって調べられるよう、また交流時に余計な緊張感などをもちずに済むように、3、4人程度の少人数の調査グループを組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「輸出」について調べるグループと「輸入」について調べるグループの組み分けは、事前に調整しておく。 一人一人が責任をもって追究していけるように、掲示された学習問題を基に、グループ内では一人一人ちがう問題を選択できるようにする。 グループ同士での交流を設定し、「輸出」または「輸入」について、各グループがどんな点を追究しようとしているのか発表し合うことによって、自分たちの調査グループの問題追究の方向性に誤りがないかどうかを確かめられるようにする。 人数が多くなるため、各グループの発表は代表が行い、その後自由に意見を言える時間をとる。 情報交換の結果を基に、グループの追究の方向性について、最終確認できるようにする。 	<p>貿易の様子に関心を持ち、自分が調べる輸出・輸入の具体的な内容について進んで調べようとしているかどうかをグループの話し合いの様子やワークシートの内容の分析を通して評価する。</p> <p>輸出や輸入などの貿易の様子を、各種の資料を活用して具体的に調べているかどうかを、グループの話し合いの様子やワークシートの内容の分析を通して評価する。</p> <p>工業生産を支える貿易の様子について問題意</p>

<p>に変更する点がないかどうか確かめる。</p> <p>4 調査グループで話し合っ、学習問題を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人がどの問題を分担するかを決定する。 		<p>問題解決のためにはどんな情報（資料）が必要か、情報をどのようにして獲得するかなど、問題を追究する方法についても考えられるようにする。</p>	<p>識をもち、学習の見通しをもって追求・解決しているかどうかを、グループの話し合いの様子やワークシートに記述した内容の分析を通して評価する。</p>
<p>5 資料の読み取りを通して、各自の問題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が見つけた（選択した）資料を丹念に読み取る。 ・資料から分かった事実をワークシートにまとめる。 	20	<p>資料を効果的に収集・活用できるように、資料の探し方や具体的な調べ方、読み取り方などを載せた手引きを用意しておく。</p> <p>一人一人が、自分なりの考えをもてるように、基本的には個人による問題解決を行っていくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時に調べた結果を調査グループ内で発表することを伝えておく。 ・資料のを見つけ方や資料の読み取り方が分からない子どもやグループには、学習の手引きを活用するよう助言する。 ・発表時に活用できるよう、調査に使用した資料名も記入しておくようにする。 ・早く調べられた子どもは遅い子を助けたりよく分からない部分はみんなで考えたりしながら、グループで協力して調べられるようにする。 <p>調べて分かった事実だけでなく、それに対する自分の考えも書けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べて分かった事実と工業生産とのかかわりに気付けるようにする。 <p>次時の発表に向け、分かったことを整理して発表用の資料にまとめるようにする。</p>	
<p>6 自分が調べて分かったことについて自分なりの意味付けを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べて分かった事実から考えたことをワークシートにまとめる。 		<p>6 本時の学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェックシートを使って本時の学習をふり返り、自己評価する。 	5



板書の様子（六合村立第一小学校）
学習全体の構造図（左）と学習問題一覧表（右）

話し合いの様子（伊勢崎市立豊受小学校）
学習問題の選択場面

